

2014年8月29日

一般社団法人グローバル人材育成推進協議会
代表理事 吉田 善明

一般社団法人グローバル人材育成推進協議会 主催

日本初 「第1回 全国統一学生ICTテスト」開催案内

全国300万人の
大学院・大学・短期大学・専門学校・高等専門学校生の全学共通ICT実力テスト
11月1日(土)～30日(日)

学生の皆さま受験料無料

このたび、一般社団法人グローバル人材育成推進協議会(以下GHRD)は、全国300万人の高等教育課程の学生を対象とした全学共通の『全国統一学生ICTテスト』を11月1日(土)～30日(日)に開催します。参加者の受験料は無料です。

全国の高等教育課程の全学共通のICT(情報通技術: Information & Communication Technology)の一斉テストは、日本初のテストとなります。

また、テストはIBT(Internet Based Test)で行われ、パーソナルコンピュータを利用した試験方式ですのでインターネット環境があれば受験期間中に、学校や自宅からいつでもインターネットに接続しての受験が可能です。ICTテストにふさわしいICTを利活用したテストとして行われます。

1. 背景

世界経済フォーラム(WEF; World Economic Forum)が発表している「グローバル情報技術報告書」(GITR; Global Information Technology Report)のICT国際競争力において、我が国は20位を境に一向に上昇することなく低迷しています。その要因の一つにあげられているのが「個人の対応力」の低さです。それらの基礎学力・専門能力が欧米、並びに新興国に対しても後塵を拝している状態にあります。

学生においても、欧米の学生と比較し文系・理系・情報系問わず低い状況は、例えば、米国においては大学の一般教養課程にコンピュータサイエンスの授業が組み込まれ、文系、理系、情報系など全学部生がICTの基礎教育(情報リテラシー、セキュリティ、コンプライアンス、倫理観など)を履修し進級、卒業をしています。

また、欧米のIT企業の新卒採用条件は、我が国の中途採用並みに職種毎に非常に詳細な採用基準が示されています。基準の特徴は「出身大学」が重要ではなく、「何を学び」、「何が出来るか」がポイントとなっており、我が国のIT企業の新卒採用基準と大きく異なる点からも読み取れます。

これらの現状を踏まえ、高度化したICT社会において第一に必要なことはICTの基礎教育を学び、身につけた学生の育成・推進を図ることです。それら学生一人ひとりの対応力を高めて社会に送り出すことであり、その役割が我が国の高等教育にあると改めて認識しております。

「第1回 全国統一学生ICTテスト」 目指せ300万人の頂点

文部科学省中央教育審議会(平成17年1月28日)我が国の高等教育の将来像(答申)第5章「高等教育の将来像」に向けて取組むべき施策

1 将来像に向けた施策の主要な柱と方向性』

には、次の提言が明記されています。

○21世紀は「知識基盤社会」(knowledge-based society)の時代であると言われる。これからの「知識基盤社会」において、高等教育は、個人的人格形成上も国家戦略上も極めて重要である。

○今後は、国際競争が激化し、国の高等教育システムや高等教育政策そのものの総合力が問われる時代であり、国は、将来にわたって高等教育につき責任を負うべきである。

「知識基盤社会」において、「生きる力」をはぐくむという理念が重要になる中で、今日ICTが「生きる力」の一つとして重要になってきているといっても過言ではありません。

以上の背景から、全国の高等教育機関を対象としたICTの「生きる力」の実力定点観測調査として「全国統一学生ICTテスト」の実施を計画しました。

2. 目的

『第1回 全国統一学生ICTテスト』の実施によって得られるデータを分析、解析、研究することで、次の成果物を策定します。

- 学生の育成上の課題抽出
- 提言活動の指針策定
- 国際競争(グローバル化)に対応できる学生の育成提言と推進

これらを図り、高度化したICT社会において高等教育課程で、ICTの基礎教育を学び身につけた学生の育成・推進によって我が国の高等教育に対する将来像に資すると共に、それらの学生一人ひとりの対応力を高め社会に送り出すことで、我が国のICT国際競争力の地位向上と豊かなICT社会の確立を目的とします。

3. 『第1回 全国統一学生ICTテスト』の概要

名 称:「第1回全国統一学生ICTテスト」

主 催:一般社団法人グローバル人材育成推進協議会(GHRD)

協 力:マイナビ2016、株式会社日経BPコンサルティング、特定非営利活動法人アイセック・ジャパンプロメトリック株式会社、

賛同企業:『第1回 全国統一学生ICTテスト』の趣旨にご賛同頂いた次の企業にて、受験者が採用エントリーシート等にスコアを記載やスコアレポートを添付した際、スコアを採用の参考にします。(但し、優遇対応をするものではありません)

- | | |
|-----------------------|---------------------|
| ●アビリティ株式会社 | ●伊藤忠テクノソリューションズ株式会社 |
| ●株式会社インターネットイニシアティブ | ●株式会社カスペルスキー |
| ●兼松エレクトロニクス株式会社 | ●CTCテクノロジー株式会社 |
| ●情報技術開発株式会社 | ●株式会社大和総研 |
| ●大和総研ビジネス・イノベーション株式会社 | ●株式会社TSOne |
| ●日商エレクトロニクス株式会社 | ●株式会社ネットケア |
| ●株式会社富士通エフサス | ●株式会社富士通ラーニングメディア |
| ●レッドハット株式会社 | 五十音順 |

「第1回 全国統一学生ICTテスト」 目指せ300万人の頂点

試験費用: 無料

試験方法: IBT (Internet Based Test) で行われ、パーソナルコンピュータを利用した試験方式です。

試験場所: 特定の場所はありません。インターネット環境があれば11月1日～30日までの受験期間中に学校や自宅からいつでもインターネットに接続して受験が可能です。

試験ツール: GAIT (Global Assessment of Information Technology)

試験時間: 52分間

出題範囲: データベース、OS、アプリケーション、ストレージ、セキュリティ、ネットワーク、仮想化の7分野

出題数: 132問

出題形式: 選択式

受験言語: 日本語、英語、中国語(留学生の方もご受験頂けます)

申込期間: 平成26年9月1日(月)～平成26年10月25日(土)

申込URL <http://www.g-hrd.org/>

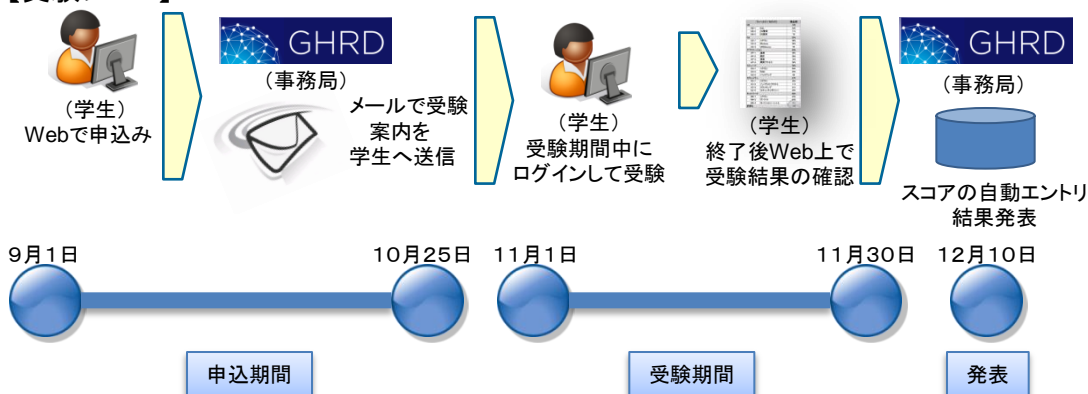
試験期間: 平成26年11月1日(土)～11月30日(日)

結果発表: 平成26年12月10日(金)(専用ホームページに掲載発表)

成績確認: 受験者は個人専用ページにて、受験後成績を確認できます。併せて個人成績をプリントアウトすることができます。

成績優秀者トップ50には、公式スコアレポート(添付資料)を登録住所に郵送します。公式スコアレポートでは、出題7分野の受験者平均スコアとご自身のスコアを比較したレーダーチャートでビジュアルに確認いただけます。

【受験フロー】



その他: 無料の学生向け「ICT基礎教育コース」を遠隔教育システム(E-learning)を活用して、当社団で配信し学習支援を実施しています。

配信URL <https://www.youtube.com/user/ghrdchannel>

【お問い合わせ先】E-Mail: info@g-hrd.org TEL: 03-3473-5075

「第1回 全国統一学生ICTテスト」 目指せ300万人の頂点

4. 一般社団法人グローバル人材育成推進協議会について

大学人が結集した当社は、1980年代以降、驚異的なスピードで普及した情報技術(IT)が今や社会の基盤となったグローバル社会で、将来にわたって我が国に最も必要なことは国際的な人材の流動化や競争に対して自信に溢れた対応ができる品格や教養を備えた学生を育成することとし、助言かつ支援活動を積極的に進めています。

役員等

代表理事	吉田善明(明治大学名誉教授)
理事	渡邊重範(早稲田大学名誉教授・元副総長)
理事	増栄諭(拓殖大学元事務局長)
理事	村岡洋一(早稲田大学名誉教授・元副総長)
理事	向殿政男(明治大学名誉教授)
理事	眞田雅子(東京女子大学前学長)
理事	原田規梭子(東洋学園大学学長)
監事	福田敏行(明治大学就職キャリア支援部部長)
監事	川口高志(拓殖大学就職部長)
幹事	斎藤博昭(慶應義塾大学准教授)
幹事	濱本和彦(東海大学教授)
幹事	小松 浩(立命館大学教授)
幹事	柏崎敏義(東京理科大学教授)
専門委員	佐藤健吾(慶應義塾大学専任講師)
顧問	キム・ジョーンズ(米国NPO法人Curriki代表)

5. 『第1回 全国統一学生ICTテスト』に関するお問合わせ先

一般社団法人グローバル人材育成推進協議会

東京都文京区本郷1-24-1

E-Mail: info@g-hrd.org

TEL : 03-3473-5075

担当: 積田(つもだ)、山口